

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	国立大学法人 京都工芸繊維大学長 江島 義道								
特定事業者の主たる業種	大学								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月 ～ 平成23年3月								
基本方針	平成19年度を基準に、平成22年度のエネルギー使用量を3%削減する								
推進体制	環境・施設委員会およびエネルギー管理専門部会を中心に実施計画を策定し、EMS活動の一環として推進する。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001			ISO14001				
	適用範囲	物質工学部門・環境科学センター			全学				
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	平成13年9月10日			平成15年9月16日				
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20～22	空調設備	非効率な老朽化した空調機を順次省エネタイプに更新する。受変電設備の改修にあわせ高効率型変圧器の導入をはかる。						
20～22	照明設備	H型の照明器具への更新の推進、廊下等共通部は人感センサー付きの照明器具に更新する。							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	6,953.8 t	6,745.2 t	-3.0 %	6,895.4 t	-0.8 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	6,953.8 t	6,745.2 t	-3.0 %	6,895.4 t	-0.8 %			
実績に対する自己評価	CO <sub>2</sub> の排出量削減について、目標値をほぼ達成できている。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	キャンパス（松ヶ崎・嵯峨）	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.0676 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	0.0656 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	-3.0 %	0.0652 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	-3.6 %		
	学生寮	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.0333 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	0.0322 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	-3.3 %	0.0335 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	0.6 %		
	その他（工機倉庫・国際交流会館）	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.0114 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	0.0110 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	-3.5 %	0.0106 t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	-7.0 %		
	実績に対する自己評価	概ね達成できた。							
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	市内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
削減量等合計	t				t				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	環境科学センター主催の公開講演会「緑の地球と共に生きる」を毎年6月に開催している。								
特記事項	松ヶ崎キャンパスにおいて、平成20年度は大規模耐震改修のため研究室の移転等で研究活動が縮減していた。								

